

当学会が日本学術会議協力学術研究団体に 指定されました！

日本母性看護学会理事長 石井 邦子（千葉県立保健医療大学）

令和6年7月29日、日本母性看護学会が日本学術会議協力学術研究団体に指定されたとの通知が届きました。日本学術会議は、日本のあらゆる学問分野の科学者で構成される日本を代表する学術組織です。その協力学術研究団体に指定されるということは、当学会が学術会議と緊密な協力関係を持ちながら、その活動全般や各委員会審議に参画することを認められたということであり、言い換えると、学術研究の発展に貢献できる学会と認められたことを意味します。数年来の願いが叶い、とても名誉なことと喜びを感じると共に、これを機に、社会的使命を果たす学術活動に一層力を入れていきたいと思えます。

当学会は、教育研究機関に所属する研究者と保健医療機関に所属する実践者が、ほぼ半数ずつを占めるという特徴があります。そのため、実践と研究を架橋する活動、例えば、母性看護学領域の高度看護実践を推進するための研究支援や若手研究者支援、またはエビデンスに基づいた看護実践に関するセミナーの開催などです。さらなる充実に向け、理事会では、新たな大型研究助成の導入やセミナー開催方法の改良についても検討しています。

会員の皆様におかれましては、会員登録情報の更新などのご協力をいただき、誠にありがとうございました。今後とも、学会活動へのご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

学会プロジェクト活動及びセミナー紹介

母性看護 APN の将来像検討プロジェクト

長坂 桂子（京都橘大学）

母性看護APNの将来像検討プロジェクトでは、2024年12月に、「母性看護APNの将来像」に関する本学会の見解をまとめた第二次報告を公表することを目指しています。この約1年の間に、学会員の皆様との意見交換会、評議員の

皆様との意見交換会、学術集会の理事会企画の場での二次報告書案の紹介、有識者ヒアリング、6回の理事会、PJ委員会を経て、意見を積み重ねてまいりました。皆様からは、実践の現状や将来期待することなど、建設的なご意見をいた

だきありがとうございました。これまでの議論をもとに、母性看護APNとして、「母性看護専門看護師」、「ウイメンズヘルスナースプラクティショナー」(現在無い資格) 両者の活躍を想定し、それぞれ、及び、共通するコンピテンシー/期待される能力の目標を描いています。2040年の将来の人口減少社会においても、女性と家族の健康やリプロダクティブヘルス・ライツが

損なわれることのないよう、多職種連携や看看連携を行いながら、一次医療、二次医療、三次医療を守っていく未来を想像しています。

プロジェクトメンバー：

長坂桂子、角川志穂、鈴木幸子、千葉貴子、常盤洋子、松原まなみ

産後のメンタルヘルスケアにおける高度実践の探求

工藤 美子 (兵庫県立大学)

本研究は、1歳未満の子どもを育てている母親とその家族に、産後のメンタルヘルスケアとして提供されている看護実践の内容を明らかにし、高度な看護実践を抽出することを目的に、将来構想部会プロジェクトとして取り組んでいます。メンタルヘルスに不調をきたしながら1歳未満の子どもを養育している母親に看護ケアを提供し、母子の心身の安定を図ろうとした実践的経験を語る事が可能な看護職を研究対象に、質的記述的研究デザインで行いました。提供された高度看護実践は、第26回学術集会で報告しましたが、その後一部修正し、「本人の訴

えや思いをしっかりと聴く」「母親のメンタルヘルスを判断する」「母親自身の思いや認識に対する気づきを促す」「母親を取り巻く家族関係をアセスメントして母親と家族をつなぐ」「母親を取り巻く人的資源を活用する」「母親役割の緊張や不安から解放するための方略を提供する」「母親の思いを汲み、でき得る育児方法を提示する」「個別ケアのために施設内や地域において多職種協働システムを構築する」など10の看護実践が明らかになりました。今後は、報告書としてまとめ、学会ホームページに掲載し、臨床で活用可能なコンパクト版を作成する予定です。

CTG セミナーを開催して

松浦 和枝 (淀川キリスト教病院)

本年度のCTGセミナーは7月6・7日の2日間、群馬大学昭和キャンパスで行われた。本セミナーは、三重大大学の池田智明先生をはじめ、本邦のCTGの研究・臨床応用に関し中心的・先駆的な役割を担っておられる先生方と協働する形で開催しており、私は2009年ごろから企画・運営に携わっている。

セミナー開始当初は、産婦人科診療ガイドライン初版が発刊された時期でもあり、良質で安全な産科医療の提供に貢献する助産師の学習

ニーズに応えるため、胎児生理学の理解とCTG波形の5段階分類について、正確な基礎知識の普及に努めた。その後も、産科診療における近年の社会のニーズ変化に合わせ、分娩管理の新たな知見、疾患背景とCTGパターン、CTG波形の経時的変化、特に本年度は無痛分娩・麻酔分娩とCTG判読・分娩管理に関する学習内容を強化した。また、本セミナーでは、チーム医療でのコミュニケーションを通じた意思決定スキル向上を目指し、グループワークや

シミュレーションを積極的に取り入れている。
今後も新たな知見を紹介し、時事的にニーズ
のある話題を取り入れてセミナー内容をバー

ジョンアップし助産師の継続学習を支援してい
きたいと考えている。

糖代謝異常妊産褥婦への看護支援セミナー (GDMセミナー)の開催

山田 加奈子 (大阪公立大学大学院)

周産期医療にかかわる看護職は、糖代謝異常
を抱える女性に対して、妊娠期・分娩期の支援
のみならず、産後も長期にわたって支援するこ
とが求められています。産後の2型糖尿病発症
の予防策の中でも、母乳育児の継続や非妊時体
重への早期復帰に向けた支援は、看護職の強み
を十分に活かすことができる部分です。GDM
セミナーは、産科医による周産期の糖代謝異常
の診断と治療の講義をはじめ、管理栄養士によ
る食事療法、助産師による糖代謝異常妊産褥婦
の心理や支援、診療報酬の対応などの講義で構
成されており、周産期・育児期の糖代謝異常に
関わる科学的に正しい情報を獲得し、適切に支

援できることを目指しています。GDMセミナー
はオンデマンド研修であり、視聴期間も長く設
定しているため、都合の良い時間に何度も視聴
することで理解を深めることができます。

今年度のオンデマンド視聴は2024年12月2日
(月)～2025年3月31日(月)です。2025年2月
15日(土)にはZoomによるグループディスカッ
ションも予定しており、臨床現場での困りごと
や具体的な支援内容などを共有できる機会もあ
ります(希望者のみ)。応募は12月25日(水)
まで絶賛募集中です。皆様の参加を心よりお待ち
しています。

WHC (ウィメンズヘルスケア) セミナー 開催のご報告

吉森 容子 (済生会新潟県央基幹病院)

ウィメンズヘルス領域の専門家より最新の知
識を学び、女性の生涯を通じた健康支援の実践
に役立てることを目的に、講義とGWという2
本立てで開催されました。

*開催日時：2024年2月24日(土) 10:00～
13:00 Zoom®によるオンライン開催

*内容：講演①月経関連症状の最新の知見と支
援 江川美保先生 京都大学医学部付
属病院産婦人科

講演②子宮頸がんの予防における看護
職の役割 工藤里香先生 京都橘大学
*GW：母性看護専門看護師がファシリテ
ーターをつとめ、現場の課題抽出から今
後の具体策を考える。

江川先生の講義では、PMSと産後うつとの
関連や鉄欠乏対策の重要性と看護職の役割につ
いて、工藤先生からは、子宮頸がん検診の受診
環境に及ぼす影響や問診の取り方、スミアテイ
カーについて、エビデンスに基づいた知識や看

護職の役割に関する具体的な内容を学びました。参加者（25名）の感想からは「最新の知識を学ぶ重要性を再認識し実践への動機付けとなった。」「看護職のWHCの場をつくる可能性を

見出した。」との前向きな内容が多く、さらにGWを通してエンパワーされている様子が伺えました。今後、それぞれの現場でWHCを実践することが期待されたセミナーでした。

第18回学術支援セミナー開催のご案内

坂上 明子（武蔵野大学）

学術支援委員会では、研究方法や研究倫理等に関する知識を提供し、研究能力や研究指導力の向上を支援するため、年1回、セミナーを開催しています。

JBI Manual for Evidence Synthesis: Scoping Reviews2020スコーピングレビューのための最新版ガイドラインに基づいて、スコーピングレビューの意義、リサーチクエスションの設定から文献検索までの手順、結果のまとめ方など、具体的にご教授いただきます。リサーチクエスションを設定するワークも取り入れ、より実践的な方法を学びます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

【テーマ】 スコーピングレビューを実践レベルで学ぼう

【日時】 2024年11月30日（土）13：00～15：30

【方法】 Zoom[®] による開催

※会員・非会員とも学会HPで1か月間

オンデマンド視聴可能

【講師】 山路野百合先生（昭和大学臨床疫学研究所 講師）

【定員】 90名

【参加費】 会員無料 非会員3,000円

【参加申込】 2024年11月22日（金）までに以下のURLまたはQRコードよりお申し込みください。

<https://forms.gle/dpEVzyqtkJZcPdhW8>



【問い合わせ先】

学術支援委員会 委員長 坂上明子
a_sakajo@musashino-u.ac.jp

TSUMUGU 会のご紹介

角川 志穂（自治医科大学）

高度実践看護推進委員会では、年に2回TSUMUGU会を開催しております。「TSUMUGU」という名称は、母性看護専門看護師、看護教育・研究者、看護管理者の三者をつなぐという意味を込めて名付けました。本会は、母性看護実践の質の向上を目的として、母性看護領域における高度看護実践上の現状や課題を三者で共有し、解決策と更なる発展を模索するため2021年

3月に発足しました。2024年からは1つのテーマで年2回セッションを行うこととし、第8回と第9回では「精神疾患を有する妻とともに子育てをする夫の体験」をテーマに、当事者の体験をもとに妊産婦とその家族への支援の具体策についてディスカッションを行いました。来年のテーマは「倫理調整」です。第10回は2025年1月12日（日）14時から16時まで、Zoomにて倫

理調整に関する事例検討を行う予定です。

会の終盤に行うTSUMUGUタイムでは、高度実践看護に関する最新の情報や情報交換を行っています。本会では母性看護CNSのみならず、助産師、看護師の皆様にもご参加いただき、

日々の看護実践における悩みや課題、それぞれの活動について共有したいと考えております。ぜひ一度ご参加いただき、さまざまな地域、立場の方と交流してみませんか？

皆様のご参加をお待ちしております。

第26回日本母性看護学会学術集会報告

第26回学術集会長 工藤 美子（兵庫県立大学）

本学術集会は、「女性の“生きる”を支える～Health & Rightsを基軸にして～」をテーマに、2024年6月16日（日）、兵庫県明石市にあります兵庫県立大学明石看護キャンパスにて対面開催し、7月31日（水）まで、会長講演、特別講演、教育講演1題、シンポジウム、教育セミナー7題をオンデマンド配信致しました。1000名を超える方々に参加登録いただき、約400名の方々が明石看護キャンパスにご参集くださいました。

特別講演は、京都大学医学研究科教授の中山健夫先生に、「Shared decision making (SDM): 共創とエンパワメントのために」をテーマにご講演いただき、シンポジウムでは、不妊・不育症女性やカップル、人工妊娠中絶を経験した女性、ダウン症児を育てている母親、妊娠・出産・育児で生きづらさを抱える女性と、様々な女性の支援について4名の演者の方々がご自身の経験をもとにお話しくださいました。オンデマンド配信の教育セミナーは、妊産褥婦のメンタルヘルスケア、経口中絶薬・緊急避妊薬の使用をめぐる課題、月経痛コントロール、妊婦の腰痛支援、妊娠高血圧症候群の対応、乳児の安全な就寝環境、神経発達症のある子どものペアレント・トレーニングと、多岐にわたるテーマでご講演いただきました。一般演題は口演15題、示説16題で対面開催のみでしたが、参加者による質疑応答や交流が活発に行われました。市民公開講座は、国連人口基金の木下倫子氏による「国連人口基金（UNFPA）のポリビアでの妊産婦死亡率低下への活動：日本での助産師経験

をどのように国連の仕事に活かしていくか」という講演を学術集会のホームページ上から配信しました。加えて、6月21日（金）には市民公開講座特別企画「国際的な活動を木下倫子氏に聴く」という座談会を開催し、約40名の方がご参加くださいました。

アンケートでは、プログラムに対し「周産期だけではなく、ウィメンズヘルスといった観点のセミナーが多くあり、広い視点で学べた」「女性の仕事やライフスタイルなど様々なことについて興味深く聞くことができた」「普段しれない事が知れた」等の感想をいただいた一方、「興味のある内容だが、内容を理解しきれなかった」「聞きたい内容が人数の制限で聞けなかった」といった感想もいただき、多くの方々に満足いただける学術集会開催の難しさを感じました。

最後になりましたが、参加いただいた皆様、多大なご支援を賜りました全ての関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。



会長講演



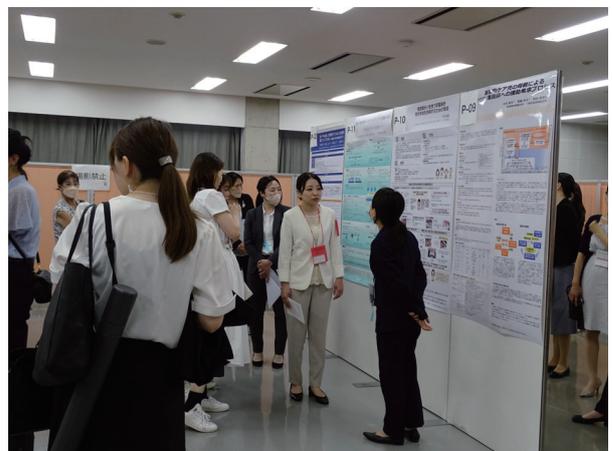
シンポジウム「女性の生きるを支える～Health&Rightsを基軸にして～」



特別講演 中山健夫先生（京都大学）



教育講演1 池田智明先生（三重大学）



ポスター発表会場

第27回日本母性看護学会学術集会のご案内

第27回学術集会長 大月 恵理子（順天堂大学）

この度、日本母性看護学会より、第27回日本母性看護学会学術集会長を拝命しました、順天堂大学大学院医療看護学研究科の大月恵理子でございます。2025年6月14日（土）、千葉県浦安市の順天堂大学浦安キャンパスにて学術集会を開催させていただきます。

ハイリスク妊産婦は日本では1980年代後半、「母児のいずれかまたは両者に重大な予後不良が予想される妊娠」と定義されました。基礎疾患を有する妊婦や産科合併症などを抱える妊婦等、明らかに正常を逸脱しているものから、統計的に正常を逸脱しやすい要因を有しているものまで含まれています。この統計的に定められ

た要因には心理・社会的要因が含まれ、非常に複雑です。ハイリスク妊産婦チェックリストも作成されていますが、単純な得点で評価できるものではありません。現在、高齢妊産婦の増加や慢性疾患の管理向上により、より高度なハイリスク妊産婦が増加しています。

そこで、本学術集会のメインテーマは、「未来への挑戦～多様性をふまえたハイリスク妊産婦への新たなアプローチの模索～」としました。ハイリスク妊産婦の多様性は増す一方ですが、ハイリスク妊産婦であるからこそ、安心・安全な周産期ケアの提供と次代の育成が求められています。学術集会を通じて、これからもますます

す多様化するハイリスク妊産婦のニーズへの対応と新たなアプローチの構築について、皆様とともに考え、挑戦する機会を得たいと思います。

本学術集会は、オンデマンド配信を併用したハイブリッド開催にしたいと思います。ライブ配信は行わない予定です。皆様と直接お会いし、学術集会ならではの有意義なディスカッションや情報共有ができますことを楽しみにしております。多くの皆様のご参加、ご発表を、企画委

員一同、こころよりお待ちしております。

学術集会事務局（順天堂大学医療看護学部内）

E-mail 27thjsmn@gmail.com

学術集会HP <http://jsmn27.umin.jp/index.html>



各委員会からのお知らせ

生涯学習支援委員会

1) 糖代謝異常妊産褥婦への看護支援セミナー (オンデマンド研修)

周産期・育児期を専門とする看護職が、この時期の糖代謝異常に関わる科学的に正しい情報を獲得し、適切に支援できることを目指しています。また、講義受講と事前事後テストの受験で、CLOCMiP[®] レベルⅢ認証申請に利用可能です。

プログラム：

1. 周産期の糖代謝の理解
2. 周産期の糖代謝異常の診断と治療
3. 糖尿病の食事療法
4. 糖代謝異常妊産褥婦の心理・体験
5. 周産期の糖代謝異常の血糖コントロールと食事・運動
6. 妊娠糖尿病妊産褥婦への支援～事例紹介～
7. 糖代謝異常妊産褥婦への診療報酬での対応

対象者：テーマに関心を持つ看護職（助産師、看護師、保健師）及び栄養士等の医療職

開催日：オンデマンド視聴（視聴期間：2024年

12月2日（月）～2025年3月31日（月）

グループディスカッション（Zoom[®]）：2025年2月15日（土）10時～11時30分

※グループディスカッションの参加は自由

参加費：7,500円（会員、入会手続き中も会員で参加可）、15,000円（非会員）

定員：グループディスカッション50名

申込方法：URLからお申込みください。

<https://forms.gle/qCaKkKGFjMZgPc317>

ラダー修了証をご希望の場合、生年月日と助産師免許番号も必要となります。

※参加費振込の確認後、11月末より順次個別に視聴のURLと講義資料データをメールにて送付いたします。

応募期間：～2024年12月25日（水）

2) WHC（ウィメンズヘルスケア）セミナー

開催日時 2025年2月1日（土）10:00-13:00（予定）

開催方法 Zoom[®]によるオンライン研修（後日オンデマンド配信あり）

講演内容

講演1：10:00～11:00

乳がんの基本的な知識と女性の健康に与える影響

講師：がん研有明病院 乳腺センター 片岡明美先生

講演2：11:10～11:40

乳がん女性に対するがん看護CNSのプレコンセプションケアを踏まえた看護実践

講師：大阪暁明館病院 井関裕子先生
(がん看護専門看護師・乳がん看護認定看護師)

講演3：11:40～12:10

妊娠中に乳がんがわかった女性に対する母性看護CNSの看護実践

護CNSの看護実践

講師：北里大学病院 尾関久子氏 (母性看護専門看護師・助産師)

GW：12:20～13:00

参加費 会員無料、非会員3000円、学生無料
定員 50名

応募期間 11月1日(金)～1月10日(金)

申込方法 下記のURLより申し込みください。
<https://forms.gle/3JszRFfQsgzxya8e6>

※本研修は、アドバンス助産師申請要件の選択研修に相当します。

受講修了証書を発行します。



事務局からのお知らせ

1. 2024年度一般社団法人日本母性看護学会総会報告について

2024年度の総会は新型コロナウイルス感染防止のため非参加型の「書面表決による総会」として開催し、社員の皆様に書面にてお諮りいたしました。社員の皆様の回答を得て、6月28日に本総会の成立となりました。詳細については、学会ホームページに掲載された議事録(2024.7.1掲載)をご参照ください。

2. 2023年度理事会について

理事会は通常理事会4回(Web)、書面理事

会は4回開催されました。

3. 第27回日本母性看護学会学術集会のご案内

2025年6月14日(土) 大月 恵理子(順天堂大学大学院 医療看護学研究科 教授)のもと、第27回日本母性看護学会学術集会を開催いたします。テーマは「未来への挑戦～多様性をふまえたハイリスク妊産婦への新たなアプローチの模索～」です。現在のところ、対面開催と講演のオンデマンド配信を予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。

4. 会員のみなさまへのお願い

1) 2024年度会費の支払い

本学会は皆様の会費で運営されております。2024年度会費未納の方は、事務局よりお送りしている郵便振替用紙（青色払込取扱票）を用いるか、あるいは下記の口座番号へ会費の納入をお願いいたします。

年会費：8,000円

① 郵便振り込みの場合（青色振込取扱票）

口座番号：00120-8-386309 加入者名：一般社団法人日本母性看護学会

② 銀行振込の場合

ゆうちょ銀行 ○一九店 当座 0386309

2) 会員情報登録システム（SOLTI）への情報更新のお願い

昨年度、会員情報管理システムが新しくなりました。「取得免許」「学位」「認定資格」「看護研究の業績」に関するご登録をお願いさせて頂いております。ご登録いただいた情報は、一層の会員サービス充実に活用させていただきますので、ご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

(1) 会員登録情報の登録方法

① 日本母性看護学会マイページからログインします。

《日本母性看護学会マイページ》

<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/mypage/JSMN>

会員番号・パスワードをお忘れの場合は、マイページに記してある再発行のご案内をご覧ください。

② 「会員情報の照会・更新」→「その他」をクリックします。

③ 取得免許、学位、認定資格、看護研究の業績について、該当するものをチェックし、必要事項を入力します。臨床におられる会員の方で、学術集会での発表経験のある方はぜひご加筆くださいますようお願い申し上げます。

(2) 基本情報、住所、所属先、メールアドレス等の変更

ご所属変更やメールアドレスの変更などがございましたら、この機会に更新をお願いします。学会から会員向けのメール配信で残念ながらメールが配信されないケースがございます。メールアドレスの変更もどうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

吹き抜ける秋風が心地よい季節となりました。会員の皆様は、暑い夏をどのように過ごされましたか。

本ニュースレターは、日本母性看護学会で実施しているプロジェクト活動、セミナーを紹介した内容で構成されています。これまで、参加者以外にあまり知られていなかったプロジェクト活動およびセミナー紹介が掲載されております。記事を読んで興味を持っていただけましたら幸いです。また、本学会に対して期待することやご意見等がありましたら、事務局までご連絡いただければと思います。

(広報委員会：大滝)



発行人：石井邦子
発行日：2024年10月31日
広報担当：中村康香、大滝千文、菊地圭子
発行：一般社団法人日本母性看護学会
〒170-0013東京都豊島区東池袋2-39-2-401
株式会社ガリレオ
学会業務情報化センター内
一般社団法人日本母性看護学会事務局
Tel：03-5981-9824 Fax：03-5981-9852
E-mail：g031jsmn-mng@ml.gakkai.ne.jp
